



味わいのあるレンガ積み門柱、アイアン製の門扉は、その家が醸し出す風格と気品をさり気なく感じさせてくれます。



主が長年、コレクションしている大切なお人形たちは、専用のお部屋の中で独自の世界を作り出すように整然と陳列されています。

知合いの「気学師」からは、引越す時期は数年先と言われていたのですが、松永先生の「すぐに移りなさい」という一言で、土地を探し始めました。かつて叔父が住んでいた田園調布も候補地のひとつでしたが、母を預けたい介護施設に近いこともあり、当地を購入することにした矢先、入所が難関であるとされていた老人ホームの当選通知が届きました…。

これは「さつと家が悪いのでは、引越した時期が悪かったのではないか…」と考え始めた頃に松永先生にお会いできることになり、その危惧が本当であるということをはっきりと理解できました。

植木が育たない、磁石の方位を示す針がグルグル回る、飼っていたインコが1年未満でみな死んでしまった、愛犬のマルチーズが病死した。そして、遂には、伯母までもが亡くなってしまいました…。

これは「さつと家が悪いのでは、引越した時期が悪かったのではないか…」と考え始めた頃に松永先生にお会いできることになり、その危惧が本当であるということをはっきりと理解できました。

松永先生のカウンセリングで、「私は『火』の性格が強い」と言われたことを聞き、深く得心できることがありました。私の家系は代々母方の方が強く、母方の家系は、明治維新のときに函館に立て籠った「会津藩士」の末裔で、伯母たちもやはり事業家で私の養母のような存在でもありました。私は、20歳の頃、劇作家として活躍することが夢で、美術学校に通っていました。しかし、母が始めた事業を手伝ううちに、商売の面白さや事業の楽しさがわかり始め、いつの間にか私は母の事業のパートナー的な存在となっていました。

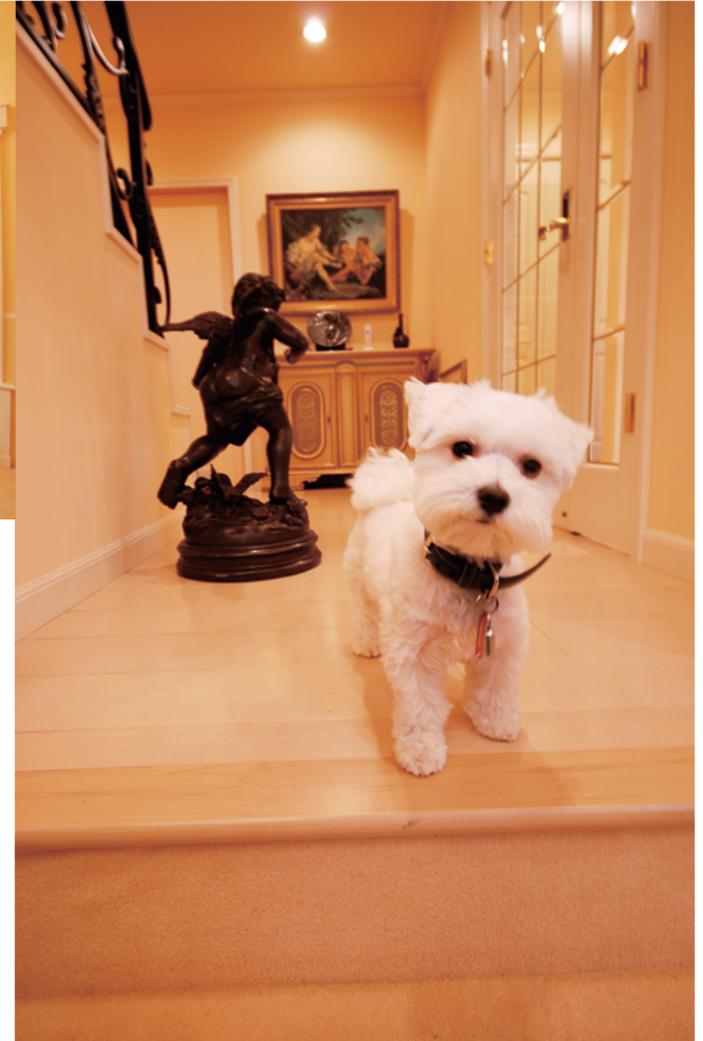
Q2 『風水住宅』に実際に住まわれるまでの間には、どのようなドラマや体験がありましたか…。



右：主が帰宅すると、愛犬「ぼくたん」が「笑顔」で必ず出迎えてくれます。

左：リビングとダイニングに高低差をつけることで、空間の「気」を活性化させていきます。

住まう場所が、そこに暮らす人や動植物の健康や運氣などに重大な影響を与えているという事を感じ始めた矢先に、奇跡は起こった。突然、TVから流れてきた映像が伝える話の中に潜む本質を理解し、それをメモに書きとる。「家」を建てるということは、住まう人や動植物の「容れ物」を作るということだけではなく、同時に「快適に生きるために欠かすことができない場と空間」を創造する行為でもあった。



風水住宅を訪ねて

東京都世田谷区 K様邸

偶然、点けたテレビ番組で紹介された邸宅の映像とコメントの数々
夢に描かれた住居が現実のものとなっていく過程は
期待するところをはるかに超えて、新たな誕生のドラマとなっていた。

風水インタビュー

FENG-SHUI Interview

Q1 『風水住宅』を建てることになったきっかけとなったことは、何だったのでしょうか…。

昨年の6月頃だったと記憶しているのですが、たまにたま過ぎにテレビを点けながら食後のフルーツを食べていたところ、「番組宣伝」の映像が流れてきました。「世界バリバリ★バリユ」という番組の宣伝で、「風水で家を建てた成功者の話」というような内容だったのですが、ふだんはテレビを観ないという時間帯であったにもかかわらず、その晩はこの番組を心待ちにするような気持ちになってテレビの前に座りました。

その番組で紹介された「成功者」のご自宅も、南欧風のとても素敵な家だったので大変興味深く思ったのですが、その邸宅を設計された方が稀代の「風水師」だったということを知り、更に興味を惹かれることになりました…。

メモ帳に「松永修岳」と名前を書き取り、その後、インターネットで調べました。ホームページの中で販売されている「講演会」のビデオなど数本を注文し、数日を経て家に届くと、食い入るようにそのビデオを観ました。特に、面白かったのは『風水墓』のビデオで、気がつくとも3回も立て続けに観ていました。そして、不思議なことにもやる気が溢れ、前向きな姿勢になっていったことを今でもはっきりと記憶しております。

私が松永先生にお世話になるきっかけとなったのは、このような偶然とも言える出会いから始まりました。その後、養老の事務所へ電話で問い合わせたところ、虎ノ門のオフィスで直接お会いできることになりました。それまで「風水師」というと雑誌の写真やテレビの映像でしか見たことがなかったにも関わらず、お会いした瞬間、なぜか「先生こそ、本物の風水師だ」と直観的に感ずるところがありました。

当たり前の話ですが、ビデオに出演されていた方と同じ人物が目の前にいるという衝撃と、身体中から自然と発せられるオーラのような「氣」に圧倒され、とても強烈な第一印象でした。

実は、私と母は昔から「一卵性双生児」のような親子だと言われておりました。私は松永先生とお会いするのが、当初は怖かったです。このことは、先生のご明察によってすべてを見透かされてしまうのではないかと、という怖さを私も母も感じていたことによるものだと思います。

Q3 『風水住宅』に住まれて、どのような変化や周りからの反応がありましたか…。

母も歳をとり、身体も弱くなってきていましたし、私もずっと体調が悪かったこともあり、「健康」を祈念した家の設計をお願いしました。住み始めて2〜3ヶ月経って、いつの間にか体調が良くなっているということに気づき、改めて、松永先生の人智を超えたお力と『風水環境科学』の神秘的な効果を実感しました。

実は、当地に引越してきた当初、近所でよく問題を起す家があり、何も知らなかった私はその家との軋轢にはさまれて、隣人とのあまり愉快ではない関係の矢面に立つことになった時期がありました。いわゆる騒音被害というものが、だんだんと相手のこれ見よがしな嫌がらせがエスカレートして、本当に再び引越しをすることさえ考え始めた頃、近所の人たちから私に対するエールが届き始めました…。

「風水住宅を建てると解決すべき問題が、一時、吹き出ることがあり、それは新しい良いものが顕れる前の兆候です」と言われたことをその時思い出しました。今では近所の方たちとも良好な関係が築かれ、問題の家族も近所と融和するかのようになりました。

「環境が人を作り、環境が人を変える」と話された松永先生のその言葉の意味するところを、その時、痛い程に実感しました。最近では、近所の家々でもお花を窓辺に飾ったり、クリスマスイルミネーションを街路に向けて点けてみたりと、確かに町並みが変わってきたように思えます。

この周辺は、休日の散歩コースとなっているようで、よく家の前で記念写真を撮って行かれたり、車を止めて眺めていたりする方々がいらつやいます。私が犬を連れて散歩に行くと、初めて出会った方ともよく立ち話になったりすることがあります。初めての土地なのですが、ここは私が選り、暮らすための場所なのだという実感が、心の中で次第に大きくなるのを感じています。

友人たちが遊びに来て、「こんなに居心地が良い家は初めてだわ」と褒めてくれ、その後「体調が悪かったのに、あなたの家にいる間に治っていたの…」と連絡があったりするたびに、この家と、それを構想、建築してくださった松永先生と関係する皆様方に対する感謝の気持ちがおこみ上げてきます。松永先生には、前世においても助けて頂いたような気がいたします。